

(18) ホウレンソウ  
ア 級菌剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	F R A C コード	適 用 病 害 虫 名								注 意 事 項
				萎	株	立	苗	根	ベ			
				凋	腐	枯	立	枯	腐	と		
				病	病	病	P	R	病	病		
アリエッティ水和剤	ホセチル	有機リン	P07						◎			
コサイドボルドー	水酸化第二銅	無機殺菌	M01						◎			葉の汚れを生じるので収穫間近の散布は避ける。
コサイド3000	水酸化第二銅	無機殺菌	M01						◎			高温時、収穫間近の散布は避ける。葉の周辺が黄化するおそれがあるので過度の連用は避ける。
スクレアフロアブル	マンデストロビン	ストロビルリン	11	◎								
タチガレン液剤	ヒドロキシイソザイゴール	その他	32		◎							
タチガレン粉剤	ヒドロキシイソザイゴール	その他	32		◎		◎					
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01						野			野:【野菜類登録】、収穫間際の散布は収穫物に汚れを生ずるおそれがあるので留意する。
バシタック水和剤75	メブロニル	アミド	7			◎						
ピシロックフロアブル	ピカルブトラゾックス	その他	U17					◎				
モンガリット粒剤	ジメコナゾール	SBI	3			◎						
ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビン・メタキシルM	混合剤	11·4				◎					
ヨネポン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅	有機銅	M01				◎					
ライメイフロアブル	アミスルプロム	その他	21				◎					
リゾレックス水和剤	トルクロホスメチル	有機リン	14			◎						
リゾレックス粉剤	トルクロホスメチル	有機リン	14		◎							
リドミル粒剤2	メタキシル	アミド	4					◎				
レーバスフロアブル	マンゾプロハミド	アミド	40					◎				
Zボルドー	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01						野			野:【野菜類登録】、収穫間際の散布は葉の汚れを生ずるのでさける。

注1)萎凋病については耕種的防除法を中心に防除を行う。

注2)苗立枯病の対象病原菌の表記 P:Pythium , R:Rhizoctonia

(18) ホウレンソウ  
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名												注 意 事 項
				ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ニ キ ロ ミ ウ マ 類	ネ ギ ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ エ 工 類	マ モ グ リ バ エ ガ 類	シ ロ オ ビ ノ メ イ ガ 類	ネ キ リ ム バ リ バ ガ 類	ヨ ト ウ ム シ ト ウ シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ム シ 類	コ ナ ダ ニ ト ウ 類	ホ ウ レ ン ソ ウ ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ チ ユ ウ 類	
アクセルフロアブル	メタフルミゾン	その他	22B							◎		◎				
アクタラ顆粒水溶剤	チアトキサム	社ニコチノイト	4A	◎												
アクタラ粒剤5	チアトキサム	社ニコチノイト	4A	◎												
アグロスリン乳剤	ジハルメトリソ	ビレスロイド	3A	◎	◎						◎					
アディオーン乳剤	ペルメトリソ	ビレスロイド	3A	◎												
アドマイヤーフロアブル	バダクロブリド	社ニコチノイト	4A	◎	◎											
アドマイヤー顆粒水和剤	バダクロブリド	社ニコチノイト	4A	◎												
アドマイヤー1粒剤	バダクロブリド	社ニコチノイト	4A	◎												
アニキ乳剤	レピメクチン	マクロイド	6									◎				
アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロイド	6									◎	◎			
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	社ニコチノイト	4A	◎												
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	社ニコチノイト	4A	◎												
アルバリン粒剤	ジノテフラン	社ニコチノイト	4A	◎												
ウララD F	フロカミド	その他	29	◎												
エルサン乳剤	PAP	有機リソ	1B	◎							◎	◎	◎			
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	IGR	15					◎	◎		◎	◎				
ガードベイトA	ペルメトリソ	ビレスロイド	3A						◎							
コテツフロアブル	クロルフェナピル	その他	13									◎				
コテツベイト	クロルフェナピル	その他	13									◎				
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト	スピノシン	5	◎					◎							
スマチオーン乳剤	MEP	有機リソ	1B	◎									◎			
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A								野	野		野:【野菜類登録】		
ダンントツ水溶剤	クロチアニシン	社ニコチノイト	4A	◎												
ダンントツ粒剤	クロチアニシン	社ニコチノイト	4A	◎												
ディアナS C	スピボラム	スピノシン	5					◎	◎		◎	◎				
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A								野			野:【野菜類登録】		
トアロ一水和剤C T	BT	生物農薬	11A								野			野:【野菜類登録】		
ネコナカットフロアブル	エキサゾール	殺ダニ	10B										ケ	ケ:【ケナガコナダニ類】		
ネマキック粒剤	ビシアホス	殺線虫	1B										◎			
ノーモルト乳剤	テフルベンズロン	IGR	15						◎							

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名												注 意 事 項
				ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ ナ キ イ ロ マ ミ	ネ ギ ア ザ ミ ウ マ	ハ モ グ リ バ エ	マ メ ハ モ グ リ バ	シ ロ オ ビ ノ メ イ	ネ キ リ ム シ ム	ヨ ト ウ ム シ ト	ハ ス モ ン ヨ ト	コ ナ ダ ニ ウ 類	ホ ウ レ ン ソ ウ ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ 類
パ ダ ン S G 水 溶 剤	カルタップ <sup>®</sup>	カルタップ <sup>®</sup>	14			◎				◎						
パ ダ ン 粒 剂 4	カルタップ <sup>®</sup>	カルタップ <sup>®</sup>	14			◎										
ファインセーブフロアブル	フロタキン	その他	34	◎												
フ オ 一 ス 粒 剤	テフルトリン	ビレヌクト <sup>®</sup>	3A								◎				◎	
プレオフロアブル	ビリダリル	その他	UN					◎					◎			
プレバゾンフロアブル 5	クロラントラニリプロール	ジアミド <sup>®</sup>	28							◎			◎			
マ ラ ソ ン 乳 剤	マラソン	有機ソ <sup>®</sup>	1B	◎												
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミブリド <sup>®</sup>	アセタミブリド <sup>®</sup>	4A	◎												
モベントフロアブル	スピロテトラマト	殺ダニ	23	◎										◎		
リーフガード顆粒水和剤	チオシクラム	カルタップ <sup>®</sup>	14	◎	◎									◎		
ロムダンフロアブル	テブフェノジド <sup>®</sup>	IGR	18										◎			

(18) ホウレンソウ  
ウ 土壌消毒剤

農 薬 名	成 分 名	R A C コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名												注 意 事 項	
			ケ キ リ ム シ シ 類 類	ネ リ ガ ム シ シ 類 類	ハ リ ガ ム シ シ 類 類	コ ガ ネ ム シ シ 類 類	ホ ウ レ ン ソ ウ ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	萎 凋 腐 病 病 病 病	株 腐 枯 病	立 枯 病 病	苗 立 枯 病	根 腐	
ガス タ ー ド 微 粒 剂 バ ス ア ミ ド 微 粒 剂	ダゾーメット	I:8F					◎			◎	◎	◎		◎		
キ ル パ ー 一	カーバムナトリウム塩	I:8F					◎		◎	◎	◎	◎		ホ	ホ:【前作のきゅうりのホモブシス根腐病蔓延防止】	
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B	◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎				
ク ロ ピ ク テ 一 プ	クロルピクリン	I:8B							◎							
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B						◎	◎	◎	◎					
ソ イ リ 一 ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎						
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎						
デ イ ・ ト ラ ペ ッ ク ス 油 剤	メチルイチオシアネット・D-D	I:8F・8A					◎		◎			◎				
テ ロ D C — D	油 剤 D-D	I:8A			◎		◎	◎								
ト ラ ペ ッ ク サ イ ド 油 剤	メチルイチオシアネット	I:8F				◎		◎		◎		◎				
N C S	カーバム	I:8F						◎		◎						

注)苗立枯病の対象病原菌の表記 P:Pythium

(18) ホウレンソウ  
工 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カルボナトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止 前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死 前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止 前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止 前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止 前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止 前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止 前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	使用目的以外での使用不可

## 才 病害虫防除法（ホウレンソウ）

### （ア）萎凋病 *Fusarium* spp.

#### （防除のねらい）

根および導管組織を侵し、下葉から黄化、萎凋、枯死する。高温を好み、主に夏～初秋にかけて多発する傾向にある。土壤伝染および種子伝染し、一度発病すると栽培期間中、立毛での防除は困難なため、土壤消毒、種子消毒を実施する。

#### （耕種的防除法）

（1）ほ場内に残渣を残さず、ほ場周辺の環境整備に努める。

（2）汚染土壤の移動および持ち込みのないよう留意する。

### （イ）苗立枯病 *Rhizoctonia solani*（株腐病）

#### *Pythium* spp.（立枯病）

#### *Aphanomyces cochlioides*（根腐病）

#### （防除のねらい）

いずれの菌も根や地際部から侵入し、苗立枯れや根腐れをおこす。リゾクトニア属菌は土壤温度20℃以上で夏播きに多発しやすい。ピュウム属菌によるものは12～20℃で春秋の作型に多い。アファノマイセス属菌によるものは排水の悪いところに発生しやすい。種子伝染や土壤伝染するので種子や土壤の消毒を第一に行う。

#### （耕種的防除法）

（1）発生ほ場では連作を避ける。

（2）ほ場内に残渣を残さず、除草に努める。

（3）ほ場の排水対策を徹底する。

#### （化学的防除法の注意事項）

病原菌により登録薬剤が異なり、適正な薬剤以外は効果が期待できないため注意する。

### （ウ）ベと病 *Peronospora schachtii*

#### （防除のねらい）

10℃前後で曇天、多雨等により多湿状態になると発生しやすい。11～4月にかけて、特に11～12月、3～4月に多い。厚播きや多肥により葉が繁茂し、軟弱な生育は発病を助長するので注意する。春季に発病がすると防除が困難なため、予防対策が重要である。

#### （耕種的防除法）

（1）軟弱にならないよう肥培管理に注意する。

（2）播種後切りわらでマルチする。

（3）排水対策を徹底する。

### （エ）モザイク病 CMV, TuMV, TMV, BtMV, BNYVV, BYMV

#### （防除のねらい）

病原ウイルスとしてキュウリモザイクウイルス(CMV)、カブモザイクウイルス(TuMV)、タバコモザイクウイルス(TMV)、ビートモザイクウイルス(BtMV)、ビートえぞ性葉脈黄化ウイルス(BNYVV)、インゲン黄斑モザイクウイルス(BYMV)の6種がある。TMV以外はいずれもアブラムシが媒介するので、生育初期のアブラムシ防除を徹底する。

#### （耕種的防除法）

（1）耐病性品種を利用する。

（2）イネ科作物やネギ類の間作を行う。

（3）寒冷紗や防虫ネットを設置し、侵入防止対策を図る。

アブラムシの項参照。

### （オ）ミナミキイロアザミウマ

#### （防除のねらい）

ハウス栽培で被害が問題となる。主に芯葉部に寄生、加害し、商品性にダメージの大きい4葉期頃までの防除がポイントである。6月以降、常に被害葉の発見に努め、キュウリ、スイカ、メロン、ナス、ピーマン等の施設が混在する地域では、これらの野菜で増殖した虫の侵入に注意し、防除のタイミングを逃がさないようにする。

#### （耕種的防除法）

（1）寒冷紗や防虫ネットを設置し侵入防止を図る。

（2）ハウス栽培終了後に蒸し込みをする。

（3）近紫外線カットフィルムを利用する。

## (カ) アブラムシ類

### (防除のねらい)

モモアカアブラムシが主である。初夏から秋播きで乾燥すると多発し、直接吸汁害のほか、ウイルス病を媒介する。生育初期の防除を徹底する。

### (耕種的防除法)

寒冷紗や防虫ネットを設置し侵入防止を図る。

## (キ) シロオビノメイガ

### (防除のねらい)

本虫は移動性害虫でケイトウ、シロザ、アカザ、イヌビユなども寄生加害する。幼虫の発生は不揃いで、7月以降連続的に発生加害する。秋季の気温が高いと発生が多くなる傾向がある。

### (耕種的防除法)

- (1) 本虫がほ場周辺に寄生する植物を除去する。
- (2) 寒冷紗や防虫ネットを設置し侵入防止を図る。

## (ク) ネキリムシ類

### (防除のねらい)

ハクサイの項参照。

## (ケ) ヨトウムシ（ヨトウガ）

### (防除のねらい)

キャベツの項参照。

## (コ) ハスモンヨトウ

### (防除のねらい)

ふ化幼虫やふ化幼虫の食害痕の早期発見に努め、若齢幼虫を対象として防除を行う。

## (サ) マメハモグリバエ

### (防除のねらい)

本県では平成4年に発生が確認された侵入害虫である。幼虫は多くの野菜・花き類を加害する上、短期間で増殖し、有効な薬剤が少ない難防除害虫である。幼虫の食害痕は白い絵書き痕、成虫の産卵痕および吸汁痕は白い小斑点になり、商品性を損なう。多発すると防除効果が低下するため、発生初期の防除に努める。また、播種直後の初生葉に寄生した幼虫は葉を食害した後、茎にも食入り、枯死させるため播種後1~2週間は注意が必要である。

### (耕種的防除法)

- (1) 残渣を適切に処分する。
- (2) 寒冷紗や防虫ネットを設置し侵入防止を図る。
- (3) 施設では黄色粘着資材等を利用し、成虫を誘殺する。
- (4) 被害葉を早期に処分する。

## (シ) コナダニ類（ホウレンソウケナガコナダニ）

### (防除のねらい)

土壤中の収穫残渣や未分解有機物が発生源と考えられる。成虫は体長が0.5mm程度と小さいため発生に気がつかないことが多い。多発すると葉が著しい奇形となり中心葉は小さな穴が開けられ、その周囲が褐変する。本葉の2~4葉の加害で商品性へのダメージが大きいため初期防除が重要である。近年、ホウレンソウケナガコナダニによる被害が顕在化してきている。

### (耕種的防除法)

- (1) 未分解の有機物の使用は避け、完熟したものを使う。
- (2) 残渣を適切に処分する。
- (3) ハウス栽培終了後に蒸し込みをする。

## (ス) ネコブセンチュウ類

### (防除のねらい)

### (耕種的防除法)

]- キュウリの項参照